

末松謙澄

ひんきょう

漢詩人、

法學者、政治家、

文學・法學博士。

安政一

年八月、二十日豊前國生れ、大正九年十月六日歿（八五—九〇）。本名

謙澄

（初めのりずみ）、字受齋、幼名謙一郎、初名房澄。號青萍、滴

翠書閣、筆名ケー、エス、劍一、春泓小史、玉月萍、笹液萍、謙、

謙澄生、青萍生、青萍迂人、青萍迂夫、青萍迂謙、青萍逸人、青萍謙、

SUYEMATZ KENCHIO等。師範學校中退。東京毎日新聞社入社、のち伊藤

博文の知遇を得、明治十一年外交官としてイギリスへ渡り、ケンブリ

ッジ入學、文學・法學を修める。十九年歸國、演劇改良會を組織し、

伊藤の長女生子と結婚。その後衆議院議員、法制局長官、渡和、内相

等歴任。貴族院議員、樞密顧問官も務めた。子爵。

著書詩書『青萍詩存』（明治十九年八月文學社）、『日本文章論』（川

田剛評、明治十九年十一月東京文學社。附歐文沿革考、井上怡漢説、

日報社説）、『希臘代理學一班』（明治二十年二月八日再版福・旬刊、

文學社）、『演劇改良意見』（市東謙生筆記、明治二十年二月十九日

再版福・文學社）、『雄辯大家實地演説集』（合著・櫻井謙造編、明治二

十一年二月一日石川傳吉刊、正文堂發兌）、『勅諭修身經詳解』（明

治二十四年十一月九日滴翠書閣藏

版、金澤堂發兌）、『修身入門（生

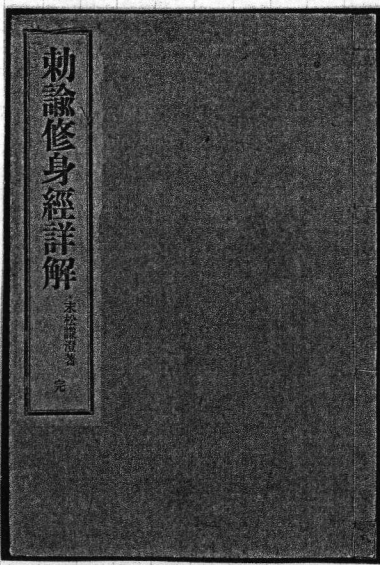
徒用）』（明治二十五年五月十六

日精華舎）、『勅諭修身經階梯』

（二版・明治

二十六年二月

八日精華舎）、



『GENJI MONOGATARI』(源氏物語)

(SUYEMATZ KENCHIOSA 譯、明治二十七年十一月二十八日富田源太郎
 編輯、丸善書店發賣「THE JAPANESE LIBRARY」)、アンデルソン著
 「日本美術全書(加筆門)」(譯并増補、黒川真頼校、明治二十九年七月
 十二日八尾書店)、「五十名家話語録」(合著、平田骨仙撰、明治二十
 一年十月十二日平田勝馬刊、鐵華書院)、末松房泰編「冠詞例歌集」
 (明治二十二年四月二十六日博文館、附録・末松謙澄「拍歌社文公就
 こ」、久良知重敏「末松臥雲先生略歴」、井原豊作「青萍先生一夕
 談」)、「伊藤藤井上維新風雲錄」(内題「春世」)、「老維新風談」編、明治
 (二十二年十月十一日折田學書院、再刊、伊藤博文、井上馨、元老直話「維新風雲
 錄」四十四年九月二十日福岡書店)、「青すいれ」(末松青萍名、合
 著、明治二十四年一月二十九日春陽堂)、「野路の小草」(明治二十
 四年十一月一日自刊)、「夢」(森田、「日本の面影」(栗田、「文學士譯、明治
 (二十九年九月十二日育英舎)、佐久間鐵園著「鐵園畫談」(末松青萍
 名、評、明治四十年四月十日佐久間健壽刊)、「岐鮎納涼時和集
 輕妙唱和集」(合本)
 (纂、明治四十一年十月十五日自刊)、「伊藤公國葬餘韻」(編、中
 佐木信綱、「敬義選、明治四十三年一月二十五日自刊」、「藤八詩存」(纂、
 明治四十三年五月十七日博文館)、「孝子伊藤公」(明治四十四年一
 月一日自刊、博文館發賣)、村上佛山著「佛山堂遺稿」(編、村上碩
 共校、大正二年七月十六日自刊、文
 會堂發賣)、「文學上」、「美術上」「二教思想研究
 一」(並「二教思想と素道」(大正七年)、「
 月十五日自刊、「審美書院
 畫報社」、「修
 吉川弘文館」發賣
 養「明治兩陛下聖德記」(大正七年九



月五日吉川弘文館）、ヅルサ、エム、クレー作「谷崎の姫百合」（一宮共譯、大正九年十一月十五日大瀧由次郎刊）、遺詠「うきくさのむらさき」（大正十年十月五日末松生子編刊）、『青萍集』全二冊（末松春寛校、大正十一年十月五日末松春彦編刊）、『布引山記』（昭和四年四月十五日長野・布引山釋尊寺事務所）等。

文獻、無河有郷主人著「伊藤博文より附伊藤巳代治末松謙澄」（明治二十九年十

一月十一日）氏友社「今世人物評傳叢書」（『蓮葉集』（大正十年十

月五日末松春彦編刊。進徳詞集）、『末松文庫藏書目録』（大正十

年七月）（日中央大學）等。